

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2024\_v1.22

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	千葉大学藤井節郎記念治療学研究	階数	地上5F
建設地	千葉県千葉市	構造	S造
用途地域	第二種中高層住居専用地域、第一種	平均居住人員	307人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年9月 0.0	評価の実施日	2026年4月14日
敷地面積	257,514 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社エーシーエ設計
建築面積	546 m <sup>2</sup>	確認日	2026年4月16日
延床面積	2,093 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社エーシーエ設計



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)

標準計算  
 ①参照値 100%  
 ②建築物の取組み 76%  
 ③上記②以外の 76%  
 ④上記+ 76%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.1

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> 大学の持つ医学、薬学、看護学および附属病院の特色ある研究基盤を活かし、各部門との連携を介して、「医学研究と人々の健康を結びつける革新的な治療学の推進」を目指し学術基盤の創成と次世代人材育成を行うための施設を計画する。		
<b>Q1 室内環境</b> 大人数での授業にも対応できるホールを備え、かつ大学研究者と民間企業が連携して研究を行える環境を整備する。交流スペースを設けることで協働をより促進し、快適な生活と研究を行える施設とする。	<b>Q2 サービス性能</b> 民間企業への研究室の貸し出しと研究室の分割利用を想定した柔軟性のある計画とする。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 計画地の隣の歴史ある七天塚を保全するようにできる限り離隔を確保する。また、正門から続く通りに面するため歩行者の歩きやすく入りやすい計画とする。
<b>LR1 エネルギー</b> BEI=0.6を達成し環境負荷の低減に配慮した計画とする。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> リサイクル資材や汚染物質を含まない建築資材を積極的に採用し、環境に配慮した計画とする。	<b>LR3 敷地外環境</b> 自然採光を積極的に取り込む建物計画とし、建築設備の効率的利用に努める計画とする。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。  
 ■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される